



第28号

編集発行／碧南市

哲学たいけん村

無我苑

所在地／碧南市坂口町3-100

〒447-0087：TEL. 0566-41-8522

：FAX. 0566-41-7761

梅原 猛 名誉村長特別講演会

演題 「怨霊の思想」

平成十九年十二月九日に碧南市芸術文化ホールにて、哲学者で、哲学たいけん村無我苑名誉村長の梅原猛先生の特別講演会が開催されました。特別講演の詳細については、以下の要約をご覧ください。



哲学たいけん村ができて十五年、年が過ぎるのは早いもので、私も年をとりました。

今回は怨霊の話をしたのだが、日本の文化、社会は怨霊の鎮魂という概念で説明ができるのではないかと考える。

日本文化における怨霊の位置づけ

日本の祭は主に怨霊の鎮魂の祭りである。日本の「カミ」は強い力をもって害をなすものである。狼（オオカミ）や雷（カミナリ）を想像してみても人間にと

って恐れる存在であることが分かる。その害をなすものに物を捧げて害を免れ、かえって守り神になつてもらおうとするのが神祭りの根源であるといえる。

怨霊の鎮魂ということは特に日本の宗教では重要である。なぜなら『古事記』、『日本書紀』によると日本国家は、渡来した弥生人の天つ神が土着の縄文人の国つ神を征服してつくった国であるからである。天つ神の子孫である大和朝廷は、国つ神の怨霊を手厚く祀り、鎮魂することをもっとも大切な宗教行事とした。伊勢神宮に対してはるかに大きな出雲大社を造つて祀つたことでも分かる。日本の三大祭といわれる京都の祇園祭、大阪の天神祭、東京の神田祭は、すべて怨霊の鎮魂の祭である。

以上のことを念頭に置いていただいて、三人の偉大な怨霊について話をしたい。

聖徳太子の場合

法隆寺は聖徳太子の怨霊鎮魂の寺であるという説は、私が三十五年程前に『隠された十字架―法隆寺論』により、はじめて唱えた説である。

聖徳太子は仏教を日本に定着させた人であるが、山背大兄王をはじめとする彼

の子孫は太子の死後二十一年目に惨殺された。子孫が惨殺され、祀る人を失った聖徳太子は怨霊にならざるを得ない。また、甚だ客観的な記述の多い『日本書紀』においても、太子については奇妙な話が多く書き記されている。私はそれに気づいて『隠された十字架』を書いた。法隆寺が太子鎮魂の寺であることは間違いない。

このように、生きていた頃の太子は仏教を日本に定着させたが、死んだ太子は怨霊になり、仏教は、今まで神道の受け持っていた怨霊鎮魂という重要な役を果たす道を開いた。

また、昨年はこの講演会で世阿弥の話をした。世阿弥といえば複式夢幻能に代表される怨霊の本来だが、最近、能楽の祖であり、聖徳太子の重臣の秦河勝に注目している。太子は、裕福な商人であったが渡来人の領袖的存在で申しめられていた河勝を、家柄ではなくその能力により重用した。ところが、世阿弥が残した書物には、河勝は晩年「うつほ船」に乗って赤穂の坂越に流され、大荒大明神になつて大避神社に祀られたと書いている。河勝が流れたのは皇極三年九月十二日と言われ、太子一家が滅ぼされた翌年であり、蘇我氏本家の入鹿・蝦夷が滅ぼ

された前年のことである。これらのことから、蘇我氏の精神的支えの太子一家を滅ぼし、次に蘇我一家を滅ぼすというのは『隠された十字架』においても論じしたが、その間に蘇我氏の経済面を支える秦河勝を追放したとすれば、はつきりと蘇我氏討滅にいたる藤原鎌足の巧妙な政治的策謀が読めてきた。

菅原道真の場合

日本における最大の怨霊は、学問の神様、天神様として祀られる菅原道真であろう。学者の家である菅原家出身の道真は右大臣になった。それは宇多天皇の寵愛による異例の出世であるが、醍醐天皇の御世になって、道真は左大臣藤原時平によって太宰府に流罪になって死んだ。

『北野天神縁起絵巻』によれば、道真の霊は雷になり、藤原時平ばかりではなく醍醐天皇をも殺したという。それで時平の弟、忠平及びその子の師輔は京都の西北に道真を祀る北野天満宮を建て、東南に法性寺という寺を建てて道真の霊を祀り、その霊を忠平一家の守護神にしたのである。それによって忠平一家は時平一家に代わって摂政関白の職を独占した。怨霊を使って権力を手に入れたといえるのではないか。

「忠臣蔵」の場合

「忠臣蔵」が怨霊であるといのは私の説ではないが、作家である丸谷才一氏は、「忠臣蔵」は怨霊の鎮魂の物語であると



いう説を出した。竹田出雲らによって「仮名手本忠臣蔵」が書かれたのは、赤穂義士の討ち入りがあった四十七年後である。大石内蔵助を長とする四十七士の討ち入りも、表面は主君の恨みを果たして吉良上野介を討ち果たすということであったが、裏面は不公平な裁きをした幕府そのものへの抗議でもあった。

赤穂義士の討ち入りのすぐ後にやはり劇が書かれていたが、それは曾我物の一種としてであった。「曾我物語」にある曾我兄弟の仇討ちも、表面は親の敵、工藤祐経への復讐であったが、やはり頼朝政治への怨恨を含んでいた。

義士の討ち入りの物語が「忠臣蔵」という名の芝居になることによって、いっそう怨霊鎮魂の色が濃くなる。「忠臣蔵」は時代を足利時代に設定し、人物名を多少変えている。大石内蔵助は大星由良之助、吉良上野介は高師直、浅野内匠頭は

塩冶判官である。

「仮名手本忠臣蔵」は「菅原伝授手習鑑」、「義経千本桜」と並んで歌舞伎の傑作と称される。菅原道真も怨霊であり、義経も日本人好みの悲劇の主人公で、怨霊であるといつてよい。

現代と怨霊

このように怨霊の鎮魂は日本の文化、歴史において重要な役割を果たしているが、現代においてもなお重要な意味をもつ。

かつてある政治家の怨霊ということが云々されたが、怨霊にならず、しかも怨霊に祟られないためにはどうすればよいかと私に尋ねた元首相がいる。

一家の中でも怨霊をつくってはいけない。いろいろな家庭の悲劇は一家の中に怨霊がいて、その怨霊の鎮魂が十分でないことよって起こる。また一つの会社の中にも怨霊になりやすい人がいる。そういう人の鎮魂が非常に大事である。これに失敗すると、いわゆる内部告発というものが起こり、その会社は大きな損害を受ける。

怨霊の鎮魂は現代でも大事な課題である。

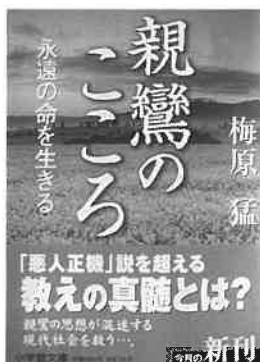
本の情報

●新潮社

親鸞のこころ

— 永遠の命を生きる —

梅原 猛著



梅原名誉村長関連情報

碧南市芸術文化ホール自主事業

「室内楽への誘い

―名曲の調べ―

日時 平成二十年五月三十一日(土)

十四時三十分開場 十五時開演

場所 碧南市芸術文化ホール・エメラ

ルドホール

料金 前売 千五百円(販売中)

当日 二千円

出演 梅原ひまり(ヴァイオリン)

ギオルギ・バブアゼ(ヴァイオ

リン)

山本由美子(ヴァイオラ)

林裕(チェロ)

田隅靖子(ピアノ)

曲目

・ハイドン

弦楽四重奏曲 第39番 ハ長調

作品33の3 Hob.Ⅲ-39 「鳥

・ショスタコーヴィチ

ピアノ三重奏曲 第2番 ホ短調

作品67

・シューベルト

弦楽四重奏曲 第14番 二短調

D. 810 「死と乙女」

※梅原名誉村長のお話「ショスタコー
ヴィチを聴く」(五分)がございます。

平成19年度開催事業

| 行事名 | 開催日 | 参加者 |
|--------------------------------------|------------------|--------|
| 名誉村長特別講演会 演題「怨霊の思想」 | 12月9日 | 366名 |
| 哲学講座(前期) テーマ「曼荼羅(マンダラ)」 | 5・6月(4回) | 延べ122名 |
| 哲学講座(後期) テーマ「物語と壺絵 一絵を読むということ」 | 12月(3回) | 延べ42名 |
| 哲学入門講座 テーマ「死と愛」 | 2月(3回) | 延べ77名 |
| 茶の湯文化講座 演題「江戸時代の茶の湯 三千家が出来る頃」 | 3月2日 | 48名 |
| 香道教室 「はじめての聞香」 | 1月6日 | 33名 |
| 村民野外研修 行き先:「浄瑠璃寺」、「岩船寺」他 | 10月28日 | 48名 |
| 第28回瞑想回廊企画展示 「羞明 橋本真理 詩と銅版画展」 | 8月28日 ~10月28日 | 観覧多数 |
| 第29回瞑想回廊企画展示 「自然との交感 小本章展」 | 1月22日 ~3月16日 | 観覧多数 |
| 観月の会 「張照翔胡琴コンサート」 | 9月22日 | 243名 |
| にしばた哲学の小径俳句ing | 6月10日 | 1,375名 |

平成十九年度の事業を終えて



観月の会

この他にも、「はじめての瞑想」や「親子教室」など、各種講座・イベントを開催しました。

平成20年度涛々庵茶会・三曲演奏予定表

| 月 日 | 涛々庵茶会 | | 三 曲 演 奏 |
|----------------|------------|-----|-----------|
| | 席 主 | 流 派 | 出 演 団 体 |
| 平成20年 4月27日 | 小笠原 利 (宗紅) | 裏千家 | 祥友会・竹秀会 |
| 「市制60周年記念茶会」 | | | |
| 6月22日 | 安形 亮照 (宗照) | 裏千家 | 菊香次社中・竹秀会 |
| 7月27日 | 高山 恵子 (宗恵) | 表千家 | 若草会・竹秀会 |
| 8月24日 | 杉浦みどり (宗翠) | 裏千家 | 絲音の会・竹秀会 |
| 9月28日 | 杉浦 時子 (宗時) | 宗偏流 | 祥友会・竹秀会 |
| 10月26日 | 小島 和美 (宗美) | 裏千家 | 絲音の会・竹秀会 |
| 11月23日 | 沢田 教子 (宗教) | 表千流 | 若草会・竹秀会 |
| 12月21日 | 小沢わさ子 (宗和) | 松尾流 | 絲音の会・竹秀会 |
| 平成21年 1月25日 | 磯貝 勝代 (宗代) | 裏千家 | 祥友会・竹秀会 |
| 2月22日 | 小笠原美美 (宗文) | 久田流 | 若草会・竹秀会 |
| 3月22日 | 山田 昇 (宗昇) | 裏千家 | 菊香次社中・竹秀会 |

お知らせ

涛々庵茶会・三曲演奏

涛々庵茶会は毎月それぞれの席主の創意工夫がなされ、華やかな茶会となっております。また、茶会に華を添える「琴

・三弦・尺八」による三曲の演奏も安吾館にて行っております。
涛々庵茶会は、毎月第四日曜日（十二月のみ第三日曜日）に行います。料金は一服四百円、時間は各日とも十時から十五時まで（立礼茶席は十六時まで）です。また、三曲の演奏はお茶会にあわせ随時行っておりますので、ぜひお越しください。

市制六十周年記念茶会

碧南市は昭和二十三年四月五日に新川、大浜、棚尾及び旭の四か町村が合併し、愛知県で第十番目の市となりました（昭和三十年には明治村大字西端を合併）。今年、市制施行六十周年の記念の年を迎え、哲学たいけん村無我苑においても、碧南文化協会のご協力のもと「市制六十周年記念茶会」を盛大に開催致します。



日時 平成二十年五月二十五日（日）
午前十時から午後三時
席主 涛々庵小間（濃茶）
山田昇（宗昇） 裏千家

涛々庵広間（薄茶）
沢田教子（宗教） 表千家
安吾館（煎茶）
杉浦とめ（留仙窟） 売茶流
立礼茶席・野点
杉浦伸子（宗伸） 裏千家

三曲演奏 安吾館

十時〜 絲音の会・竹秀会
十二時〜 祥友会・竹秀会
十四時〜 若草会・竹秀会

呈茶券 二服付八百円
（前売券は四月中旬より無我苑にて販売）